

令和5年度 京都府立乙訓高等学校学校経営計画【実施段階】

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点目標
1 めまぐるしい社会の変化を前向きにとらえ、自分らしく幸せな未来を創り出せるように主体的に考え、感じて、判断し、行動できる知・徳・体の調和のとれた人材の育成に努める。 2 「第2期新京都府教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、地域社会と連携しながら、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を実現する。	1 生徒・地域・保護者に信頼される学校としての教育活動を展開するために、落ち着いて学習ができ、部活動や学校行事にも安心して取り組める環境づくりを行うことができた。 2 オンライン授業の活用がさらに進み、生徒の学びの保障につながった。その一方で、ポストコロナを見据えた新たな教育活動の展開を検討する必要がある。 3 新しい進路指導計画に基づいた進路指導が機能し、生徒の多様な進路実現を果たすことができた。 4 ICTの効果的な活用方法の研修、教員間の授業参観研修を行うことにより、生徒が積極的に学習活動に参加するための授業を模索し、教員の授業改善への意識がかなり高まった。 5 ペーパーレスの促進、電話応答時間の設定、通知票の所見・押印廃止、業務のデジタル化の推進等により、教職員の働き方改革が前進した。 6 学校ホームページやInstagram、PTAお知らせメール、Webアプリケーションを活用し、日々の教育活動を即時に発信することができた。通学圏の中学3年生にも、同じように学校の情報を発信していく必要がある。	1 普通科・スポーツ健康科学科における効果的な学習を展開するとともに、社会状況の変化を幅広く視野に入れながら、将来の進路を見据えた学習内容・行事等を計画・実践する。 （1）基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。 （2）「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、学習活動の質をさらに高める。 （3）授業デザインプロジェクト（JDP）や授業研究週間等を通じて教員相互の授業研究を推進する。 （4）言語活動や体験活動、ICT等を有効活用した学習活動の更なる充実を図る。 （5）探究的取組の充実を図り、生涯にわたって探究を深める資質能力の育成に努める。 （6）学習室（自習室）の有効活用等を通して生徒の学習習慣の定着を図る。 （7）全ての生徒が自己の存在を実感し、精神的に安心できる居場所づくりを推進する。 （8）生徒一人一人を大切にし、希望進路の実現に向けた取組を推進する。 2 学習・部活動・学校行事等を通じて豊かな心や創造性と健やかな体の育成を目指した教育の充実に努め、主体的に行動できる力を高める。 3 職業観、勤労観を育成するキャリア教育及び人権教育、情報教育の推進に努める。 4 家庭や地域との緊密な連携を図るとともに、校内連携体制の充実に努め、「生徒・保護者・地域から信頼される学校」づくりを一層推進する。 （1）生徒の個性、多様性、複雑性に対応する生徒指導を推進する。 （2）基本的な生活習慣を確立するための指導を推進する。 （3）規範意識の高揚に係る生徒指導を推進する。 （4）幅広く部活動の充実を図り、学校の活性化を推進する。 （5）ボランティアへの参画等、地域社会にも貢献できる自主的な活動を推進する。 （6）開放型地域スポーツクラブ「おとくにクラブ」の活動を通じて、地域との連携を推進する。 （7）本校の魅力を十分に発信し、幅広く、本校志望者の増加を目指す。

領 域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
教 務 部	組織的な校務運営の推進	時間割編成及び管理、定期考査運営、生徒在籍管理、科目登録・講座編成、教科書届出、指導要録管理、基礎学力補充、学習指導資料(成績資料、シラバス等)の作成、入学者選抜などの所管業務を適切に遂行する。	B	B	B	時間割編成、定期考査運営、科目登録、講座編成、教科書等届出事務など学習に関わる業務を適正に遂行できた。学習指導資料を作成し、教員間で情報を共有することができた。 入学者選抜は今年度も過密な業務日程であったが、最大限効率的に運営することができた。
		校務システムの円滑な運用を推進し、成績、出欠管理、指導要録、調査書等、職員が能率よく業務を遂行できる環境を整備する。特に校務システムにおける日々入力を導入することで、出欠管理を強化する。	B			校務システムの運用を円滑に行うことができ、成績処理等の業務効率化に寄与したが、システムに入力後のデータ等についてのチェック体制を強化することが急務である。 出欠について日々入力へと移行したことで、より正確に出欠を管理することができた。日々入力の習慣化に課題が残る。
	新学習指導要領に適した授業の推進及び、基礎的・基本的な知識及び技能の習得	授業研究週間、研修会、教科主任会議、教員への情報発信等を通して授業改善を進める。特に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。	B	B		授業研究週間や研修会を通して、学力向上に向けたタブレットの有効活用方法について、研究を進めることができた。今後もタブレットの有効活用方法について研修を進めていく。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。 定期考査前に基礎学力補充を実施し、成績不振生徒の減少に努めた。補充のあり方について今後も検討していく。
		成績不振生徒対象に定期考査前に「放課後学習講座」を効果的に実施するなど、減少傾向にある成績不振者をさらに減少させる。	A			
総務企画部	生徒募集及び学校情報の発信	SNS等を情報発信の中心に据え、きめ細かな更新を行い、学校情報を広く発信する。また、家庭との連携をさらに緊密にするめ、Google Classroom、PTAメール配信システムを有効活用する。	A	B	B	学校HPやインスタグラムを用いて、学校行事や特色ある校内の取り組みを中心に発信に努めた。また、できる限りタイムリーに更新し、学校の魅力を発信した。 PTAお知らせメールやGoogle Classroomを積極的に活用し、より確実に情報を伝えるように努めた。
		令和4年度から実施している学校教育改革の進捗状況や、本校が目指す学校像や魅力を学校説明・中学校訪問等を通じて広く理解を図る。また、本校教育目標に合致する生徒の募集、確保に努める。特に普通科発展コースにおいては、その設置目標や魅力を打ち出し、学習意識が高い生徒を確保する。	B			学校説明会や中学校訪問、地元中学校への出前授業や塾訪問等を通じて、本校の魅力、特にコースの特色について積極的に打ち出した。今年度も地元8中学校をはじめ、志願者数が多い近隣学校を重点的に訪問し、進路主任と情報交換を行った。 前期入試普通科においては、昨年度より20名程度志願者が増加。全体的な数字としては、一定の成果が見られたが、地元8中学校からは、30名程度減少する結果となった。
	「総合的な探究の時間」の学習・取組内容の充実	各学年・コースにおける授業の円滑な実施及び内容の充実を図る。また、3年次の各コースの実施内容の検討・年間指導計画を作成する。	B	B		学年・コースに応じた特色ある活動を実施した。また、学年毎に全体の成果発表会も実施することが出来た。3年次の実施内容については、自己探究を計画中。

領 域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
生徒指導部	学校生活の充実	生徒会活動を充実させ、各種学校行事を活性化させることで全校生徒が主体的に学校生活を送ることができる取組を行う。	B	B	B	コロナの規制緩和後初となる文化祭・体育祭において、キッチンカー・PR動画・学年の取組、ハチマキの導入・生徒考案種目の追加など、コロナ前に戻すだけでなく、新しい取組を実施することができた。一方で、ルールの統一した指導や、急なルール変更による混乱を生じたため、情報の共有や徹底に課題が残った。部活動等について、入部率は大きな変動はないものの定着率の面で課題が残った。
		部活動の入部率・定着率の向上や、ボランティア活動の広報など、課外活動の充実を図る。	B			
	規範意識の高揚	学年部を中心に各分掌と連携をとり、情報共有を行うとともに、生徒の状況に応じた指導を行う。	A	B		学年部と連携して生徒対応にあたることができた。指導が繰り返し必要な生徒については、学年と連携し保護者面談を実施した。教員間ルールの共有や、見直しなども含めて統一した指導をとれる体制を整えていく必要がある。携帯電話の不正使用が目立った。３学期にはSNSの不適使用による特別指導があるなど、携帯電話、SNSのルールやマナーに対する周知・徹底が必要である。遅刻については、生徒指導部の校門指導だけでない学校全体でのあり方を模索する必要がある。
		生活規律（遅刻、ネットモラル、身だしなみ）の指導や、自転車を中心とした安全指導、人権教育などを通して、社会人として通用する規範意識の高揚を図る。	B			
進路指導部	進路実現に向けての取組	進路目標を明確にするための自己発見を促す取組を通じて、自らの将来像を具体的に描かせる。面談や面接を通じて生徒一人一人のニーズに合った進路目標の実現と、実現のための学習法を適切に指導する。	A	A	B	１年生には12月に、２年生には10月に外部講師を招いた進路学習を行った。また２年生に早期から志望理由書などの高校生活での学びをまとめさせるため、作文の添削指導を行った。自身の進路を見据える取り組みとして効果的であった。また12月の外部会場で行った学習会では非常に意欲的に学習した。
		探究活動で発表・作成したものを成果物として活用し、総合型選抜や学校推薦型選抜でのプレゼンテーションや自己推薦書などの作成指導を行う。	A			志望理由書の添削指導を３年生対象に放課後を中心に行った。また面接対策講座を行い、様々な受験形式に対応できるよう指導を行った。多く生徒が第１志望の進路に向けて対策講座に参加し、進路実現を果たすことができた。
	学力向上に向けての取組	授業での学びと放課後の補習、自習室での自学自習を有機的に結びつけ、生徒一人一人の目標や狙いに応じた個別的な学力向上を目指す。	B	B		放課後の補習講座や長期休暇中の講座に多くの生徒が参加し、学力向上に向けて積極的に取り組んだ。また１・２年生の土曜活用講座では出席率もよく、英語、国語、数学をバランスよく学び発展的な学習を進めることができた。
		2025年度以降の新学習指導要領に沿った入試へ向けた具体的な進路指導方針を固める。学外の各種説明会やセミナーに参加し、進路指導における最新情報に基づいた進路指導を展開する。	B			2025年度入試に向けて、各大学の方針が徐々に示される中、校内でもセミナーや説明会に参加することで情報を共有し、新入試への準備が進められている。春休み期間から新年度入試に向けた学習のスタートが切られるため、今後も最新の情報を得ながら効果的に進路指導を進めていきたい。

領 域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
図 書 部	図書館の円滑な運営と図書館教育の充実	図書館利用者、来館者を増やすために、積極的に啓発、広報活動を行い、イベントなどを実施することで本や図書館への関心を高める。 授業・行事・特別活動において、各教科・分掌との連携を深める。特に、調べ学習におけるタブレット利用との円滑な連携を図る。 蔵書の充実を図ると共に、公共図書館や他校の図書館等と連携し、必要な資料を貸借することで、教育活動を支え、生徒の教養の育成を促す資料の充実を図る。 コンピュータによる書籍管理・検索・貸出業務を実施する。	B	B	B	来館者は少し減少しているが、落ち着いた読書スペースとしての位置づけは保たれている。読書週間などで様々なイベントを行ったが、イベント企画の詳細の決定が遅く、タイムリーな広報が行えなかった。それに伴い、イベント参加者数も限定的になってしまった。また、そもそもイベントが、図書館の活性化に繋がるのかどうかという点では、検討が必要。イベントにしか参加しないという実態もある。 I C Tやタブレット学習に関しては課題が多い。まず、Wi-Fi環境が整っていないこと。また、探究学習などに関しては、内容的に図書部がどのように関わられるのかという点でほとんど検討できておらず、単なる「場所貸し」ととどまっている。総務企画部などとの連携が必要ではないかと思われる。
	図書委員会の充実	図書委員会活動を活発なものにし、読書週間等の行事の充実を図る。 図書館見学会・図書委員会交流会等、他校との交流や他校の取組から学べる機会に積極的に参加する。	A	A		全員ではないが、熱心に取り組む図書委員もいた。様々な広報を行ったが、図書館の存在が十分に周知されているとは言いがたい現状がある。ホームページなどによるアピールを増やすべきだと考える。また、交流会などの経験をどのように活かすかの検討が必要である。
保 健 部	精神的に安心できる居場所づくりのための健康に関する知識・意識の高揚	各種健康診断を計画に沿って実施し、生徒の実態に応じて、生徒自らが自身の健康の保持増進を図ることができるようにする。	A	B	B	2学期の10月末までの間に全ての健康診断を実施した。 保健委員会で、熱中症、生活習慣、睡眠の3分野に分かれて、調べ学習を実施し、クイズ形式の展示に取り組んだ。保健委員会だよりの発行はできていない。
		心理面や発達課題のある生徒の指導を関係教職員（担任・保護者・SC・教科担当者・部活動顧問）が関係機関と連携を図り、効果的に行う。 また、発達に課題のある生徒の理解を深めるための研修会を実施する。	B			教育相談会議を学期ごとに開き、特別事情を認める生徒を検討した。また、心理面で課題のある生徒については担任・養護教諭・カウンセラー・S S Wが連携して対応策を協議した。 保健部研修では、『特別支援教育の基礎と合理的配慮の具体例』という内容で実施した。
	学習活動の質を高めるための学習環境の美化整備	美化委員及び教職員で組織的、重点的な清掃を行い、経年劣化が進む校舎を美化する。また、生徒と教職員が一体となって、日常清掃・定期大掃除を充実させる。 さらに美化週間を各学期1回程度、設定し、美化委員会で清掃の点検を行う。	B	B		日常清掃・定期大掃除を計画通り実施し、美化委員が黒板消しクリーナーの洗濯を継続的に実施した。学年末にはモップ先の回収をした。 2学期に2回クリーンアップデイズを設定し、通常清掃より丁寧な清掃を実施するよう呼びかけた。
	環境検査を学校薬剤師の協力を得て計画的に実施し、その結果に基づいて教室内の二酸化炭素濃度の通減など教育環境を整備する。	B	学校薬剤師と養護教諭が協力して、学校環境検査や、校舎内外の安全点検に取り組んだ。教室内環境は欄間換気と昨年設置されたブラックボードの活用により、基準値1500ppm以内であったが、冬場の換気の実行にはまだ課題がある。			

領 域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
事 務 部	高等学校教育の変化に対応する教育活動の促進と支援	学校DX推進チーム、授業デザインプロジェクトによる新しい教育活動の形を具現化する取組を、財務を中心とした専門領域の面から模索・促進する。	B	B	B	ICTの進歩とコロナ禍を経た教育現場の変化や探究学習の発展に歩調をあわせたスポーツ健康科学科、普通科各コースなどの取組の充実を図るため、校内の教員チームと連携しながら予算の許す限り必要物品の整備を推し進めた。また方向性は異なるが学校DXの推進として自動採点ソフトの導入による働き方改革の促進を助けた。
		学習指導要領や入試制度の変化に対応する学力向上・進路指導の取り組みをより実効あるものとするため、担当分掌と情報を共有しながら、財務を中心とした専門領域の面から支える。	B			新学習指導要領の実施に伴い必要となる新たな物品、指導書等の購入予算の確保について尽力した。 また、進路指導の一環として行った第2学年冬季集中進学補習では、新会場である向日市民会館との調整を担当し、生徒の利便性向上と費用負担減を実現した。 次年度は計画段階から教員とコミュニケーションを図り、財務の面からサポートしたい。
	安心安全な学校生活の確保	在校時並びに卒業後の就（修）学を支援する施策を、タイムリーに、わかりやすく届けることにより、生徒一人一人が学校生活に打ち込める環境を整える。	A	B		在校中に受けられる各種奨学金のお知らせや卒業後の奨学金の制度について、ホームページへの掲載あるいはGoogleClassroomによる生徒全員への配信により、周知もれが生じないよう努めた。
		日常的な点検や対策を通じた適切な施設管理と設備運営により、施設設備の不具合を起因とする事故事象を未然に防ぐ。	B			事故の未然防止を目的に日常的に校内を巡回し、危険箇所の発見・対応に努めるとともに、教員から寄せられる施設設備の不具合に対しても迅速に対応した。
第 1 学年部	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	学習習慣を確立させるためにも、基本的な生活習慣を確立させる。そのために、日々の遅刻指導・服装指導の徹底など、授業規律を守るよう指導する。	B	B	B	担任間での連絡を密にとる中で、生徒指導上、気になる生徒に対して、該当担任だけでなく学年団で、また生徒指導部にも指導していただいて、生活規律、授業規律を高めることに努めた。
		朝学習、土曜活用、タブレット利用学習などを様々な角度で展開し、学習習慣を確立させる。 進路実現に向け、次年度の適切なコースを選択できるよう指導する。	A			朝学習において成績が不十分な生徒に対して補充を行った。また、土曜活用での欠席に対して教員が家庭連絡を取るなど、意識を持って参加できるようにした。また伸長コースの生徒には土曜学習会を実施し学生ボランティアによる学習指導を行った。 各学期での面談、模試返却時の面談・声掛けを行う中で進路に対して意識を高めることができた。
	学習・部活動・学校行事を通じて主体的に行動できる力の習得	ホームルーム活動・学校行事へ積極的に取り組み、参加する中で集団としての力をつけ、リーダーを育成する。	A	A		校外活動での班別行動や、総合的な探究の時間でのグループでの取組など、主体的に取り組む姿勢を育成できた。また文化祭での取組においては、クラス全体で協力する中で、リーダーの育成に努めることができた。
		集団での生活を通し、自他ともに多様性を認め高めあう集団作りを行う。また集団の中での規範意識の高揚に努める。	A			学期に2～3回の学年集会を行う中で、集団の一員としての自覚と、集団の中での自身の役割を意識させた。

領 域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
第 2 学年部	高校 2 年生にふさわしい多角的な学習の展開、学習習慣の確立ともに進路実現に向けての意欲的な取組の支援	朝学習をテスト形式にし、家庭学習に計画性を持たせ、土曜活用や講習を積極的に受講させ応用的な学習にも取り組ませる。	A	B	B	朝学習では、英数国の小テストと新聞による課題を計画的に課し、定期的に振り返りの中テストを実施し、不十分な生徒は放課後に再テストを実施した。毎回高得点を取る生徒や、朝早く登校し学習する生徒など学習習慣の定着に効果があった。土曜活用や冬期集中補習は、目的意識を持ち、実践的な問題に取り組ませることができた。欠席者も少なく、受験生として学習する雰囲気を作ることができた。また、成績不振者は、教科担当の方々の補充授業や学習ボランティアの活用により、理解度が上がり、放課後教室で自主的に学習するなど効果が出ている。
		「進路達成プログラム」を活用しながら、自分の進路について主体的に考えさせ、意欲的な活動を支援する。	B			進路希望については、未定の生徒もいることから、引き続き支援が必要である。来年度は、早期に進学先が決定する生徒が卒業まで意欲的に学習に取り組むために、先取りの学習や検定試験などを活用する方策を考える。
	部活動や学校行事、探究活動に力を入れ、主体的に判断し創造的に行動する生徒の育成	委員会などの活動を活発にし、リーダーを育成して、校外学習や文化祭などの企画や運営をさせながら、友人達との協働作業を充実させる。	B	B		新しい取組であり、テーマを決定するまでも生徒指導部にお世話になりつつ、自分たちでも積極的に作り上げようという意思が感じられ、放課後も遅くまで準備するなど熱心な活動をした。文化祭実行委員が中心となり、後片付けや清掃などに取り組む姿も見られ、成長を感じた。
		研修旅行について、沖縄や北海道の歴史的な側面や文化的価値を学ばせると共に、多くの活動を主体的に行うことを通して、他人の意見を尊重し、豊かな心の育成や旅を楽しむ姿勢を支援する。	A			事前学習を複数回行い、どのような集団として現地に赴き、そこで何を学ぶのか、レポートさせて当日に臨ませた。当初危惧された体調不良の生徒も少なく、多くの生徒が自主的に目標を見だし、意識を高く持ち、多くのことを学んだと思われる。
第 3 学年部	生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を習得及び生徒の希望進路実現	国語科、英語科の主導のもと、SHRの時間を活用した学習を行い、基礎学力を身につけさせる。	A	B	B	国語科、英語科の取組にとどまらず、学年独自で読解力を鍛える学習に週一回取り組ませた。読解力の向上が期待できる取組となった。
		日々生徒との対話を大切にし、また、進路に関わる担任業務を確実に遂行し、希望進路を実現させる。	B			定期的に面談を行い、生徒の進路希望を丁寧に把握した上で指導に当たった。進路指導部が定期的に主催した進路検討会でのアドバイス等も大いに参考にした。
	学校行事を通じて、主体的に行動できる力の高揚	学校行事では、生徒たちが協働して作業できる場を作り、主体的に行動できる力を養えるよう指導・支援する。	A	A		校外活動で班別自主研修を実施したり、文化祭で演劇をクラスで協力して作り上げたりする中で、生徒が主体的に行動するよう指導・支援することができた。
	生徒把握を確実にするべく、他分掌や家庭との連携の強化	保健部や保護者とも連携して、生徒の体の変化や心の変化を迅速に捉え、生徒にとって安心安全な学校生活となるように努める。	B	B		保健室に来室した生徒の報告を保健部から受けて、必要に応じて家庭連絡をするなど、きめ細かく業務を遂行した。生徒にとって安心安全な学校生活となるよう努めることができた。

領 域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
スポーツ 健康科学科	スポーツ健康科学科の充実に向けた取組 の推進	スポーツ健康科学科の学習内容と事業等 について、より専門的な洗練された内容と なるよう、その体系化を進める。	B	B	B	教員・医療看護系をはじめ、様々な進路を希望する生徒で構成さ れるクラスであるため、進路実現に向けた取組は、競技力強化偏 重にならないように、スポーツを多角的な視点で捉える内容を中心 に、「スポーツ概論」・「スポーツ総合演習」という専門科目 の中で行った。これらの授業では、主体的な学びの姿勢を身につ けるため、探究学習のスタイルを取り入れた。その成果として2 年次における研究発表の充実につなげることができた。
		専門科目の効果的な学習を展開し、将来の進 路を見据えた学習内容を計画・実践し、スポー ツ科学や健康科学、社会学等に対する興味を 深め、成果としての研究発表の質をさらに向 上させる。	A			
		希望進路実現に向けた学力の向上・定着を図る。	B	B		クラス内における学力の幅が広がる傾向が見られる。上、中、下 位層、それぞれに対して進路実現に向けた学力向上・定着を図る ため、細やかな講座編成が必要であり、成績上位層対しては普通 科発展クラスと併せた講座編成の必要性を感じる。
		競技力向上を図り、重点種目にとどまらず、多 くの種目で全国大会出場者を増加させる。	A			競技力向上においては、全国高校総体、国体などの全国大会に延 べ25名が出場した。

学校運営協議会による評価	・学校の教育活動がコロナ禍以前に戻り、生徒たちにとって良い経験ができる教育活動を展開されていることが大変喜ばしい。 ・生徒・教職員を問わず、防災教育・研修の充実をお願いしたい。 ・多様な外部の人材を活用したキャリア教育を展開してはどうか。 ・目標を十分に達成しているのであれば、もう少し高い評価をつけていただいてもいいのではないかな。
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	・スクール・ミッションを最上位目標に置いた教育活動を展開するよう、全教職員の意識の高揚を図る。 ・多様な生徒に対応できる学校組織の構築と、学校運営のあり方を検討し、研修等を通して教職員のスキルアップを図る。 ・「主体的、協働的で深い学び」の実現に向けて、授業デザインプロジェクトが中心となり、教員の授業改善をより一層進展させる。 ・デジタル人材育成事業等を通して、学校のDX化をさらに推進する。
---------------	--